

# オンリーワン



バリアフリー  
ペーパー

12月号  
平成 24年12月18日発行

偶数月発行

この機関紙は、西条市障害者相談支援センターがパソコン就労をめざす障がい当事者グループ「オンリーワン」に編集を委託し、協同で作成したものです。



毎年、この時期になると、大掃除や用事で頭がいっぱいになり、何だか、ソワソワした気分になります。我が家の4歳の娘も、「サンタさんが来るまでに部屋を片付けておかないといけない！」と普段ならしない片づけをイソイソとしています。イヤイヤしている母と比べ、クリスマスを楽しみにしている娘は、終始嬉しそうにしています。同じ片づけという行為でも、楽しみや喜びが感じられることで、こんなにも違うものなのかなあと感じます。私も無理にでも笑顔を作って大掃除してみようかなあと感じます・・・。  
みなさんも年末はお忙しいことと思いますが、無理せず、良いお年をお迎えください。  
(支援センター津島)

## 国際ソロプチミスト活動資金を贈呈されました！

11月20日に国際ソロプチミストいしづち支部定例会にて援助金を賜りました！



始まりは、平成24年の早春、機関紙オンリーワンが国際ソロプチミストいしづち支部の近藤会長の目にとまったのがきっかけでした

障害者相談支援センターの機関紙を障がい者自身がデータを収集・編集し、地域に配信するシステムはとても貴重な手段と大絶賛してくださいました。

そしてソロプチミスト日本財団活動資金援助事業にエントリーしませんか？との声をかけていただき思い切って応募しました。

書類を提出して3か月経った頃、ソロプチミスト石鎚の役員さんから連絡があり、厳正な審査の結果、援助金がいただける事になりました。

もうびっくりして、オンリーワンの編集員と共に嬉しさと歓喜の声をあげました。

真面目に継続し、皆で声を掛け合いながら一つの事を実らせる充実感、健常者でも障がい者でも同じなのです！「認めてもらった！」と強く思う気持ちは、これからのオンリーワンにとって、どれだけ自信に繋がる事でしょう！私達を陰で支えてくれている、支援センターの相談員の方にも本当に感謝の気持ちで一杯です。

援助金の使途は、まだ全部は決まっていますが、皆で社会貢献できる物を購入しようと相談しています。その時間は楽しく、仲間の笑顔に、強い絆を感じます。

突然の難病や中途障がいを乗り越えた人などが、『社会に役立つ事をして認めてもらった証』の援助金を大切にに使わせていただこう思います。

(梅野)



(イラスト しんすけ)



## 当事者の奮闘記 未来への軌跡

### ～柳瀬 修二(やなせしゅうじ)さん～



「(\*^▽^\*)人生楽しく♪お茶飲み友達募集中です！」

笑顔で話してくださる柳瀬さん♪



今回は、西条市障がい当事者グループ「オンリーワン」に、頼もしいメンバーが参加してくれる事になったのでお話を伺いました。柳瀬修二(やなせしゅうじ)さん、昭和33年生まれの現在54歳。丹原町来見にお住まいです。

🍷 発病は2年前の朝、寝起きに突然「ズキン！」と激しい頭痛が走り、時間を追うごとに手が痺れてきたそうです。当時は勤務しながらPTAなど地域活動をしており、ちょうど丹原七夕祭りの世話役として様々な準備をこなしていた時期でした。

祭りの期間中、お金が数えられなくなる等の症状が出ていたようですが、当時は難病を発症しているとは夢にも思わず、そのまま仲間と楽しくお酒を飲んで帰宅・就寝。翌朝起きると右手が全く動かず、市内の救急病院へ即入院するも原因不明で回復せず、1日で愛大病院へ搬送。様々な検査の後、急性髄膜炎・多発性硬化症と診断され現在も通院闘病しています。

両手の痺れや感覚麻痺・指先の痛み等の症状があり、右足の感覚が無く踏ん張りが利かないそうです。

主治医には、「病状は人それぞれなので、いきなり進行することもあるし、いきなり目が見えなくなる事もあります。」と言われたとのこと。

突然の病で体の自由が利かなくなるという体験を受け止めつつ、入退院を繰り返しながらリハビリを頑張っていた今年の4月、縁あって西条市民病院に就職することができました。

🍷 現在『リハビリテーション助手』として毎日午前中に受付業務などを担当しているそうです。患者さんに「体を支えて下さいね。」と言われると、ご自身の身体が不自由な部分もあるので、慎重になってしまう事もあるそうですが、患者さんの手助けとなる時間はとても楽しく、生き甲斐の一つになっているそうです。

♪🎤🎵  
もう一つの生きがいは、趣味のコーラスサークルで歌う事。PTAのコーラスから発展し、しだいにメンバーが増えてきて、今後は三芳の交流センターで歌う予定もあるのだそう。

🍷 「料理をする時は不自由ですが、自分で頑張っています。晩酌を日々の楽しみにしつつ、これからもコーラスを続けていきたい。障がい者パソコン講座への参加も充実しています。今の仕事はできるだけ長く続けて社会貢献していきたい。」と今後の抱負を優しい笑顔で語ってくれました。

ちなみに柳瀬さんには娘さんが二人おり、下のお子さんは来年お嫁に行かれるそうです。優しさあふれる人柄から察するに、きっと結婚式では涙されるんだろうなあと思いを馳せました。

とても穏やかに屈託なく取材に応じてくださり、ありがとうございました。これからもご自分の人生を楽しみながら、お仕事や様々な活動に笑顔で参加してくださいね。(初恵)



# 第29回 ひまわり号の旅に参加して 三井アウトレットパーク倉敷&倉敷美観地区散策



日本で初めての障害者専用列車「ひまわり号」は、1982年11月3日(文化の日)、障害者とその家族、沢山の人の夢と希望を乗せて上野～日光間を走りました。東予(愛媛県東部地域)実行委員会においても、1983年11月に西条から松山の大街道へ「ひまわり号」を走らせました。その後も、毎年数多くの方に支えられながら「ひまわり号」は走り続けています。

11月4日(日)7時30分、電動車椅子で参加の私は、大型リフトバスに乗車しました。実行委員・障がい者・ボランティアさん合わせて総員48名。リフト付きバス数台に乗車し出発です。バスの中で「ひまわり号実行委員会」発足当時のメンバー西条市民病院の理事長真鍋敏朗さんにお話を伺うことができました。

当時、全国で21本の「ひまわり号」電車が走ったそうです。

東京の病院に入院していた患者さんの「汽車に乗りたい」という願いを実現するため「ひまわり号」という障害者専用列車を走らせたのが始まりだったようです。当時は車椅子の通れない列車のドアや改札口・階段も多く、体に障がいのある人たちが自由に列車に乗って旅が出来ないのが現状でした。

現在のようにバリアフリーの整備が進んでいないため、どうしても介助に要する荷物が多く重装備での移動となるため、大変な労力を要したそうです。当時の国鉄へ働きかけや、段差・お手洗いに關する事、現地での受け入れ場所探しを通じて、利用しやすい駅作り・街作りへと発展してきたのでしょう。様々な苦勞も参加者の喜ぶ顔を見ると疲れも忘れ、皆さん元気が出たとのこと。



【理事長さん】



お話を伺い、ビンゴゲームで一喜一憂している間に、ひまわり号は瀬戸大橋を渡って岡山県三井アウトレットパークへ到着。到着してからのランチは、それぞれ好みのメニューを選び、食事しながらお喋りをする楽しいひと時でした。ショッピングやお茶を楽しみ、写真を撮るなどゆっくり過ごしていると、他の二台のバスはとっくに倉敷美観地区に行ってしまったようでした。

私達のバスは車椅子の人が多くバスの昇降にも時間がかかり、倉敷美観地区へ行く時間がなく帰路に着く事になりましたが、充実した時間を過ごし、帰りの車中はカラオケで賑わいました。

お世話になった礼を述べ「来年又会いましょう」と手を振りあって別れました。多くの実行委員やボランティアの方々、どなたも明るく優しく接して下さい、とても楽しい一日を過ごしました。今後もひまわり号の活動と、温かいつながりが続きますように。(美奈子)



### 彩り

11月23日、東予文化協会写真部より岡山へ撮影旅行に行きました。寺で修行中の雪舟が絵ばかり描く為、柱に縛られ、その時、涙でネズミの絵を描いたという逸話のある宝福（ほうふく）寺の庭です。紅葉がきれいでした。

撮影：のぶちゃん

### つぶやきの窓 by HIRO

※このコーナーは、日々の生活の中で思ったことや感じたことをつぶやくコーナーです♪

先日の歌番組で、アンパンマンのマーチを歌っていました。その中で話されていたのが、アンパンマンのマーチの歌詞が深いということでした。そこで、アンパンマンのマーチを自分なりに解釈してみました。

“どんなに辛くて困難なことにも、傷つくことを恐れず立ち向かって、生きる喜び、幸せを感じてほしい。傷つくことを恐れて戦わないことは、生きている意味がわからないし、幸せでない。”ということが言いたいのではないかと思いました。ネットで調べると様々な解釈があり、こんな見方もあるのかあと感心させられ、なかなか面白かったです。皆さんはどんな解釈をしますか？ (HIRO)

### 【カフェオレとクッキー】



↑美奈子さん作 パソコンで描いたイラスト

### 投稿コーナー「たしっぽ」

ほの こそ  
温かき仄かな香り部屋に満ちふと甦る去年の思い出

美奈子

去年の12月からオンリーワンの編集員に加えて頂き、もう一年経ちました。温かいカフェオレの香りに誘われて、去年の暮れに初めて「ふらっと」の部屋でオンリーワンのメンバーに温かく迎えられた日の事を懐かしく思い出しました。

### 編集後記

今年の夏、初めての国際交流を体験しました。言葉の壁が心配でしたが、タイ語の「こんにちは」「ありがとう」そして笑顔で心が伝わりました。障がいを持つ方とは「幸せなら手を叩こう」で国境を越えました。( ^o^ ) / \ ( ^o^ )

これからも少しずつでも国際交流をして、友達の輪を広げていき、笑顔で来年も楽しみたいと思っています。(徳増)



発行：西条市障害者相談支援センター（西条市社会福祉協議会）

編集：オンリーワン編集委員

〒799-1371 西条市周布 606 番地 1 西条市東予総合福祉センター内

TEL：0898-64-2600 (代) FAX：0898-64-3920 E-mail：soudan-saijo@galaxy.ocn.ne.jp